

研究発表

居酒屋、職人、結社 ——18世紀末ウィーンにおける ビアハウスの中の「公論」(仮)

上村敏郎氏

(筑波大学人文社会系特任研究員)

特別セッション

「近現研」の同時代史的位置

近年、日本の史学史の対象として、1970・80年代への関心が高まっている。それは、新自由主義の歴史的検討や脱植民地化研究のような同時代史研究の対象として、この時代への批判的再検討が迫られていることと決して無縁ではないだろう。本会は、2010年に創立40年を迎え、同年のサマーセミナーでは特別企画として創立に関わった各氏の報告を得た。その一部は、2011年度会報に掲載している。本会は、とくに「西洋」の近現代史を志す若手研究者のインターカレッジな討論の場として発足したが、紆余曲折を経ながらも現在まで活動を継続してきた。1970・80年代の本会の活動を、史学史の対象として振り返ると同時に、その同時代的な位置づけを検討する作業は、決して過小評価されるべきではないだろう。ぜひこれまでに本会に関わってきた方々の積極的な参加を期待している。本セッションでは、まず委員会から論点を整理した上で、当日の参加者と討論を行う予定である。

日時:2012年6月23日(土)

14時~18時30分

会場:専修大学神田校舎
7号館(大学院棟)8階
783教室

■会場までのアクセス:

- ・JR水道橋駅西口より徒歩7分
- ・地下鉄東西線、都営新宿線、半蔵門線
九段下駅 出口5より徒歩3分
- ・地下鉄都営三田線、都営新宿線、
半蔵門線 出口A2より徒歩3分

■事前申込不要、会員以外の参加も
歓迎します。